



第 9 号

鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団

とっとり

全国青少年赤十字
賛助奉仕団協議会信条

1. 青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
1. 赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
1. 志を同じくする人々と手を取り合い研鑽に努める。

東日本大震災から二年、「自ら」

鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団 委員長 福原 則昭



東日本大震災から早2年の時が流れました。米子に避難していた福島県の女生徒も福島に帰り、高校生として元気に頑張っている、と聞き喜んでいきます。しかし、仮設住宅の問題、子どもたちの心のケア—等さまざまな問題が山積してはいますが、

赤十字では「防災」「減災」に対する取り組みが進んでいきます。学校でも、発災に備え、生徒自ら適切な行動がとれるよう、「自助」の態度を身に着ける事が、求められています。支援活動と同じように、「気づき」、「考え」、「実行する」を駆使した、さらなる取り組みが期待されています。

リーダーシップ トレーニングセンターを通して

鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団 副委員長 金田 千義



平成24年度、小学校は岩美町のマリノクラブ大谷荘を会場に7月31日～8月1日、中学校は7月27日～28日に、高等学校は7月27日～30日にそれぞれ伯耆町の中四国国立大学大山共同研修所で持たれました。

賛助奉仕団では、毎年団員それぞれが持っている経験や技術などを発揮して、トレセンの運営や指導のお手伝いをしています。

このトレセンでは、青少年赤十字の考え方や、活動などを習得させることはもちろんですが、参加者が「気づき、考え、実行する」の態度目標が身につくようにしています。

人と人のつながりや絆が叫ばれ、人間愛の豊かな学校づくり、社会づくりが求められている今、トレセンはこれを実現する機会を提供できる場になると考えています。

(新団員の声)

弓ヶ浜中学校での思い出

田中 義雄



私は昨年三月末、三十八年間の教職生活を卒業しました。その間、十五年間弓ヶ浜中学校に勤務させて頂きました。

その弓ヶ浜中学校では青少年赤十字との出会いがありました。

特に昭和63年～平成元年には研究主題「青少年赤十字活動を通して豊かな心を育てる教育」を設定し、職員一丸となつて研究推進に取り組んだことが今でも忘れられません。

毎月のVS活動の試みでは、生徒はVS用紙に計画をたて実践しました。その後、評価・反省を記入して担任へ提出すると、担任は次のVSへ発展するよう指導を加えていきました。また、この時「ノーチャイム」(昭和63年以前から導入されてきました)や「掲示板利用による連絡」という生活手法を導入しました。主体的な生活ができる生徒を育てることがねらいでした。移行するとき、混乱が生じはしないだろうかという不安がありました。が、実際に移行してみると意外にスムーズに運営することができたように思い出します。青少年赤十字活動を通して生徒たちが豊かな心を育み、健康で明るく生き抜いていく力を身につけてほしいと願っております。



平成24年度
**全国青少年赤十字賛助
奉仕団協議会総会（報告）**

委員長 福原 則昭

平成24年度「全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会」が7月5・6日の2日間日本赤十字社本社で開催された。

運営活動の基本方針の確認、事業報告、会計・決算報告、事業計画、予算等について、活発な討議と意見交換が行われた。

1、全体会での協議、課題事項

① 賛助奉仕団の組織拡充・運営及び活動の活性化について（団員の高齢化、団員の確保）

② 指導者協議会との連携について

③ 各県支部・他の奉仕団との連携について

2、第5ブロックでの協議、課題事項

① 賛助奉仕団の活性化（研修会の工夫）

② 「いとすぎ」植樹への取り組みを通じた加盟促進・保持について

③ 防災教育の充実

* 「救急法コンクール」の実施

* 「避難所研究発表会」の開催

* 「避難所研究発表会」の開催

* 「避難所研究発表会」の開催

催

二日目は、「証言―東日本大震災その後」と題して、被災3県の委員長が、貴重な体験の様子を語られた。

今年度は、「青少年赤十字創立90周年」になる。昨年の東日本大震災に際し、青少年赤十字の多くのメンバーが自発的に支援活動に携わった。更なる活動と同時に、防災教育の大切さを実感した大会であった。

平成24年度
中国・四国
ブロック

青少年赤十字賛助
奉仕団連絡協議会
研修会（報告）

委員長 福原 則昭

平成24年10月4・5日香川県高松市で開催された。

(1) 実践発表

・三豊市豊中中学校

・高松市立檀紙小学校

(2) 研究協議

① 加盟校拡大・新入団員の増加方策

② JRCの質的向上をめざす活動

③ 指導者協議会、関係団体との連携

④ 赤十字の原点「いとすぎ」の植樹（愛媛県 平松清一委員長の実践）

(3) 研修

「日プラ株式会社」の視察

（水槽用大型アクリルパネル「アクアウォール」の設計・製造・施行会社）

催

平成25年度 事業計画	
月	活動内容
4	・青少年赤十字加盟登録式への出席
5	・役員会（5月、12月）、総会
6	・青少年赤十字指導者協議会への参加
6	・赤十字ボランティアスキルアップ研修会へ参加
7	・全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会役員会
7	・青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターの支援（小、中、高校部会）
10	・中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会、研修会へ出席（広島県）
10	・指導者研修会への支援
H26.3	・賛助奉仕団機関紙「とっとり第10号」発行
3	・赤十字奉仕団鳥取県支部委員会
随時	・加盟促進活動

平成24年度 事業報告	
月	活動内容
4	・青少年赤十字加盟登録式への出席
5	・役員会（5月・12月）、総会
7	・全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会へ出席
7	・青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターの支援（小学校、中学・高校合同）
10	・中国・四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会、研修会への出席（香川県）
11	・地域奉仕団研修会へ参加
11	・国際交流活動への支援
H25.3	・高校生JRCメンバー（岡山県）交流会への協力
3	・賛助奉仕団機関紙「とっとり第9号」発行
3	・赤十字奉仕団鳥取県支部委員会
随時	・加盟促進活動

中学校・高校校種連携 トレーニングセンター

鳥取県青少年赤十字指導者協議会長

平野 公一

(境港総合技術高等学校長)



トレーニングセンターを久しぶりの校種合同で大山共同研修所を利用して開催しました。参加校は中学校では東伯中学校、夜見中学校、北斗中学校、高校では米子西校、北斗高校、境港総合技術高校の3校、計6校で実施しました。高校は七月二十七日～三十日、中学校は二十七日～二十八日の日程でした。今までは、中学校部会、高校部会別日程で実施していたものを、同じ会場を使って、同じものを食べて、同じ日程で開催できたことがなにより成果であったと思います。高校生メンバーも中学生の時に青少年赤十字活動をしてきた生徒ばかりではなく、「中学生と、うまくやっていけるか。不安に感じている生徒も多かったです。中学生メンバーが帰った後も、重責を果たした疲労感はあるものの大きな達成感を感じていました。各校種単独で開催しているトレーニングセンターも参加校は、多くはありません。課題は山積みですが、可能であれば、一部分でもよいのでまた合同開催させていただけたらと思っております。指導者の先生方、異校種との先生との意見交換ができ中学校ならではの高校ならではの指導方法等、指導が難しい

点等聞かせていただきありがとうございます。今回の合同開催に当たり、ご尽力いただきました鳥取県支部長田課長補佐をはじめとした職員の方々、ボランティアスタッフの方々、ご協力ありがとうございました。生徒を育てていくために今後とも、ご協力お願いします。

活動紹介

5年生の青少年赤十字活動

倉吉市立成徳小学校

教諭 和田 一進

私は、気づき、考え、実行する子どもたちを育てるために、青少年赤十字に加盟し、総合的な学習の時間を使って活動していくことにしました。

成徳小学校の5年生は、赤ちゃん交流、幼稚園交流、高齢者の方々との交流などを通して、ふれあうことによつて、わかりあうことができるということを学んでいきました。

さらに、学びを充実させるために、青少年赤十字の方々のご協力をいただきました。

まず、視覚障がい者理解のための点字体験とガイドヘルプ体験を行いました。子どもたちは、集中して取り組み、体の不自由な方々の気持ちを理解することができました。

次に、パキスタンの学生との交流を行いました。この交流は、あたたかい雰囲気の中、素敵な交流会になりました。日本の文化の紹介をはじめ、リコーダー奏、歌のプレゼント、遊び交流などを行いました。遊び交流では、



視覚障害者理解の活動



国際交流



パキスタンの遊び「キングス」と日本のスポーツ「ドッジボール」を行いました。パキスタンの方々にも大好評でした。国に帰ったら紹介したいと、笑顔いっぱいでした。子どもたちは、様々な貴重な出会いと交流を行いました。子どもたちは、ふれあうことが、人と人の心をつなぎ、世界の平和へとつながっていくことを学ぶことができたと思います。

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの活動

【小学校の部】

・日時 七月三十一日(火)～八月一日(水)
 ・会場 鳥取マリンクラブ大谷荘
 ・参加者 二十一名

岩美町内でのトレセン開催は三年目である。「岩美町赤十字奉仕団」には、トレセンを含め青少年赤十字活動全体にかかわり、支援・協力していただいている。また今回、「東部安全赤十字奉仕団」の方々にも協力いただいた。

活動内容

- 学習「赤十字ってなあに」
- 実技「水の事故を防ごう」水上安全法
- 福祉体験「うらしま太郎」になります
- 学習「災害について考える」
- 野外活動・キャンプファイヤー
- 学習「非常食体験」「実技、救急法」



水の事故を防ごう



岩美町赤十字奉仕団と非常食体験

【中学校・高等学校の部】

・日時 七月二十七日(金)～三十日(月)
 ○中学 二十七日(金)～二十八日(土)
 「泊二日」
 ○高校 二十七日(金)～三十日(月)
 「泊四日」
 ・会場 中国・四国地区国立大学大山
 共同研究所

・参加者
 ○中学 三十六名 ○高校 十名

初めての中学校、高等学校合同での開催であった。

スタッフ・講師として、鳥取赤十字病院、青少年赤十字賛助奉仕団、「百舌の会」赤十字奉仕団、米子青年赤十字奉仕団の方々に、協力いただいた。

◆合同研修(一)～(五)

- (一) 赤十字と青少年赤十字
 (講義の後、HR対抗クイズ大会)
- (二) 福祉体験(文字を正確に音で伝える)
- (三) 中学「災害救助品集め」
 高校「国際人道法」
- (四) 非常食体験(ハイゼックスについて)
- (五) 健康生活支援講習
 ～災害時にできること～



中学校・高等学校合同開催

(ホットタオルの作り方、
 リラゲゼーション)

(六) 中学「ワークシヨップ」
 高校「救急法」
 ほぼ同じプログラムで行い、ホームルーム中でも、校種を超えた活発な交流、意見交換が見られた。活動を通して、JRCについて認識が深まった感じがした。

二日目の午後からの研修(七)～(九)を高等学校単独で活動した。

単独研修(七)～(九)

- (七) フィールドワーク
- (八) 自然に親しむ
- (九) ワークシヨップ

自然の厳しさと美しさの中で、「青少年赤十字」を問い、自分の変容を図る一歩になった大山登山であった。



大山寺



講義「健康生活支援」

国

際

交

流

活

動

国際交流を通して

岩美町立岩美南小学校 徳田 吉弘

岩美南小学校の6年生にとって外国の方との交流は、本年度2回目でした。9月にロシア、ブラジル、そしてベトナムの方と交流していました。

そのときのみなさんは、日本で生活しておられたので、言葉は通じましたが、今回は、通訳の方の同行があるとはいえ、言葉が通じないことに戸惑いがあったように感じていました。実際に、子どもたちからも、「何をするのですか。大丈夫ですか。」という疑問の声がありました。

「せっかくなので、挨拶と名前、好きなこととは伝えよう。」

と事前に話していました。

外国語活動

でも簡単な会話をしていたので、事前に練習をして交流会に臨みました。

また、学習発表会で行ったよさこいソーランと和太



和太鼓を打ちながら

鼓を見ていただきました。日本の文化を話して伝えることは、難しいことですが、見ていただくことで日本の文化を伝えることができました。

逆にパキスタンの遊び「キングス」と一緒に楽しみました。夢中になって行っていました。やはり子どもたちにとっては、触れ合っただけで遊ぶことが何より印象に残ったようです。その遊びを低学年に伝え、遊んでいる姿を見ることができました。通じ合えるために何が大切か感じた国際交流会となりました。

パキスタン国際交流事業

米子市立弓ヶ浜中学校 加藤 貴代美

去る11月22日、赤十字国際交流事業の一環として、パキスタンよりアサドクんとシャヒーダさんを本校にお招きした。

◆本校での交流の流れ◆

全校集会(対面式)：紹介

昼休憩(弁当)：生徒会執行部とともに。

5時間目：保健体育(3年1、2組)

男子：柔道、女子：バレーボール

6時間目：英語(3年1組)

掃除時間：生徒玄関(2年1、2組生徒と)

終わりの会：浜風学級生徒と交流

放課後：剣道部、吹奏楽部を体験



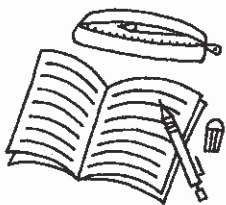
柔道[揚技]

あった。

授業を終え、休憩していた2人は感激していた。

放課後の部活動は、2人が剣道も吹奏楽も両方体験し、大変喜んでくれた。

今回の国際交流事業を通して、生徒たちは互いを知ること、違いを受け入れることを学べたと思う。またJRC精神の交流もできたのではないかと思う。大変貴重な時間を過ごせたことに感謝したい。



弁当の時間は、生徒会執行部の生徒たちが質問をして答えてもらい、その答えから文化の違いや日本の認知度を知り、互いに楽しんでいた。

保健体育の授業では、男女別に3年生の生徒たちとともに活動を楽しむ姿があった。

国際

交流

活動

ホームステイの国際交流

米子北斗高等学校3年 松本京子

11月17日、18日に、国際交流集会有り、パキスタンから高校生の男女二人を迎え交流をしました。二人には、座禅など日本の文化に触れてもらい、私の家にもホームステイしてもらいました。

パキスタンの国語はウルドゥー語ですが、二人とも公用語として英語も話せます。私も英語は勉強していますが、なかなか話すことができなくてコミュニケーションをとることが少しむずかしかったです。

家では折り紙で「鶴」を折りました。二人とも折り紙は初めてだと言っていました。とても上手で驚きました。「家では何を



過ごしているの？」と聞くのと、「だいたいは家では勉強している」と答えました。

二人が通っている学校は宿題がとても多く、それだけで一日が終わる、と言っていました。ま

た、教科書はすべて英語で記載されており、当たり前ですがそういう所も日本との違いだなと思いました。パキスタンでは、ドラえもん、ポケモンなど日本のアニメも放映されているらしく、二人とも知っていました。

二人と交流して一番感じたことは、やはりコミュニケーション能力の大切さです。私は国際的なことにとっても興味があり交流会に参加しましたが、思ったように彼らと話が出来ませんでした。これらのことをふまえて、今後私自身ももっと勉強してたくさんの人と交流したいと思っています。

地域奉仕団との交流

パキスタン・イスラム共和国から、平成24年度「青少年赤十字国際交流事業」で、16歳の男女二人が鳥取県を訪れ、11月16日（金）〜23日（金）の約一週間滞在しました。今回の国際交流活動はその一端です。地域奉仕団との交流もありました。

「米子市淀江町赤十字奉仕団」

「餅つき体験」を、淀江中央公民館で奉仕団員のみなさんと交流しました。杵は、なかなか重たかったようですが、お餅は上手に丸めていました。

「鳥取市赤十字奉仕団」

「茶道体験」を、日赤鳥取県支部で団員のみなさんと交流しました。手つきよく立て、紅葉と栗の饅頭で、2杯飲んだようです。また、フラワーアレンジメントにも挑戦しました。



編集後記

賛助奉仕団の機関紙「第9号」が春の訪れとともにできあがりしました。原稿を執筆下さいました皆様方に心より御礼申し上げます。わたしたち「賛助奉仕団」の基本方針に、「指導者協議会」との連携をうたっています。この趣旨にのっとり、「この奉仕団の機関紙に」指導者協議会だより」を入れることにいたしました。共に青少年赤十字活動を支え、活動の幅を広げたく思っています。

発行

鳥取県青少年赤十字賛助奉仕団
〒680-0011
鳥取市東町1丁目27-1

TEL0857-22-4466 FAX0857-29-3090
日本赤十字社鳥取県支部内